

東日本大震災と文明

東日本大震災はその被災の範囲・深刻度において、近年の災害の中でも現在の世代が経験したことのない大規模な自然災害となった。歴史的記憶を超えた自然災害に人間はどう対応することができるのかという問題がわれわれに突きつけられた。さらに、原発事故、サプライチェーンの破綻から、原子力エネルギー依存、グローバリゼーションへの対応法という、現代文明のあり方を反省させる契機ともなった。2011年度から開始した個別研究プロジェクト「東日本大震災と文明」は、こうした観点から急遽編成されたものである。建学の理念である「調和のとれた文明社会の創造」の研究を第一に担う当研究所は、東日本大震災が現代文明に投げかけた様々な問題に正面から取り組むことが必要であり、また、その研究の成果を学内外に発信することは、教育研究機関としての大学に付置された研究所の責務であると考えている。

本号では、2011年12月8日に開催された「シンポジウム 震災復興とエネルギー対策」(東海大学湘南校舎15号館4階第1会議室)で報告された基調講演、報告、討論ならびにパネルディスカッションを掲載する。